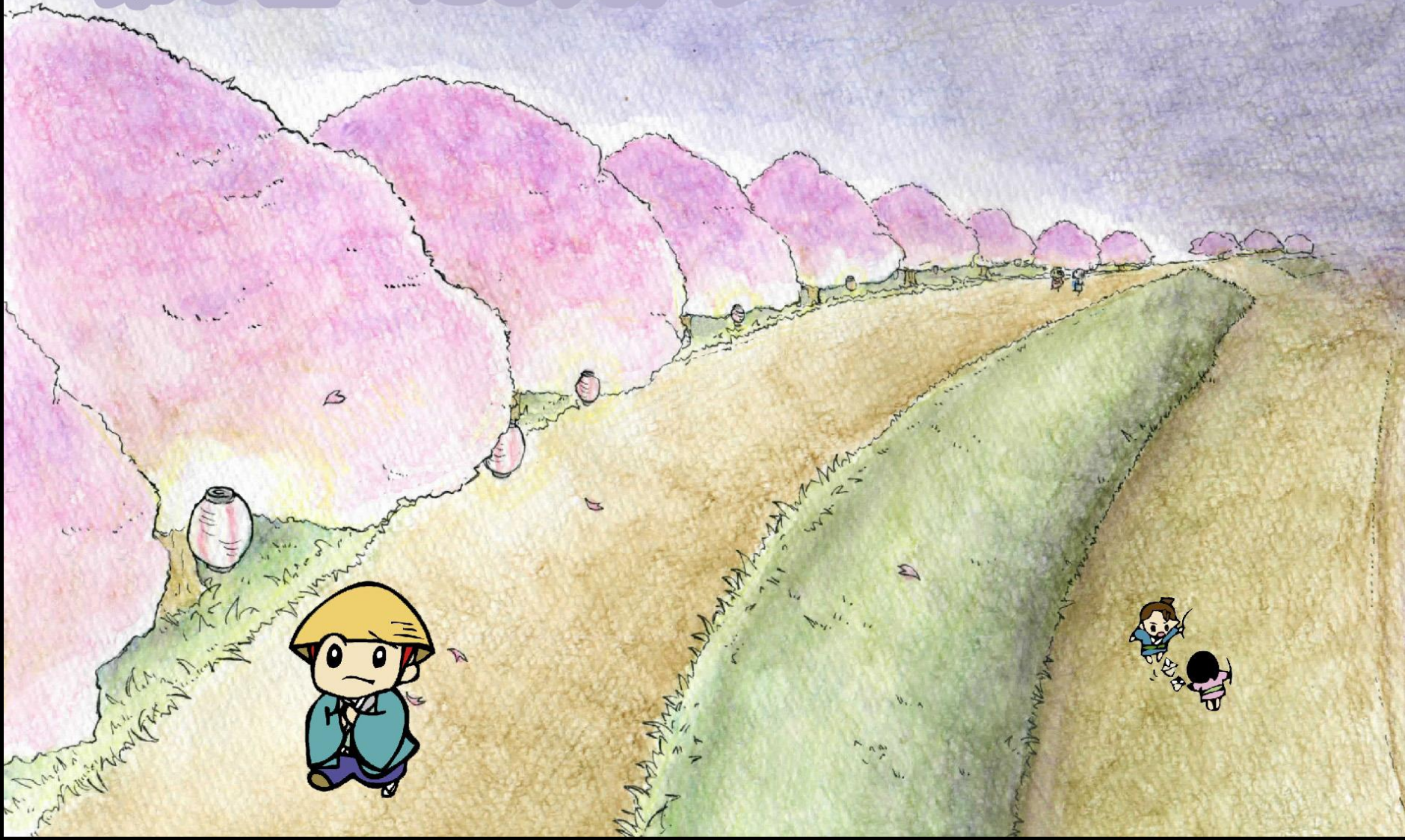


# 第6話 たび丸、夕又キにだまされる





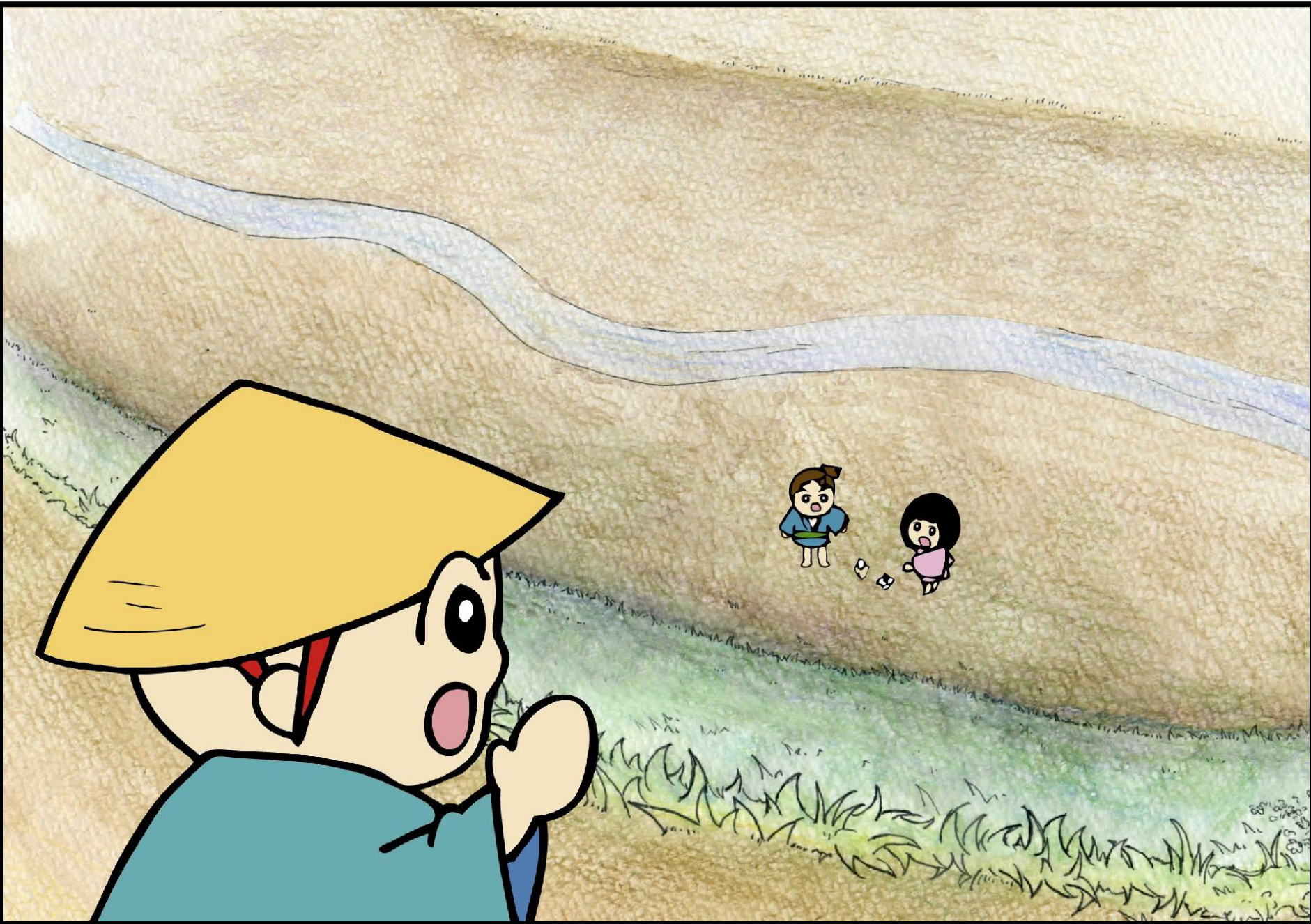
区画整理は順調だけど、野路の玉川にある、  
タヌキのすみかをどうしようか。  
山を切り開かないといけないし、  
タヌキを追いやってしまう。かといって進めないと・・・



あ——！  
どうしたらいいんだ——！！



ん？  
あんなところに・・・

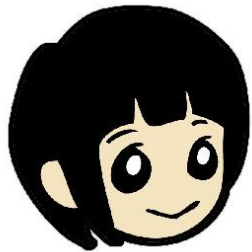




おーい、こんな遅くまで遊んでいないで、  
家に帰りなさい。  
親御さんが心配するじゃないか。



あ、あの有名なたび丸さんですよね！？  
こんばんはー！



こんばんはー！



(この辺では見かけない子だな・・・)  
おうちはどこなの？



玉川だよ。  
お父さんは出て行ったきり、  
しばらく家に帰ってこないんだ。



お母さんはここ最近、病気で寝込んでいるの。



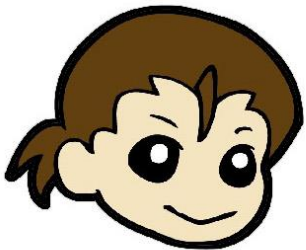
最近、このあたりも人が増えてきて、  
緑が少なくなって、憩<sup>いこ</sup>いの場所がなくて  
なんだか息苦しい、ってお母さんがよく言ってるんだ。



僕らの住む玉川も今区画整理っていうのが進んでいて、町家がいっぱい建つって聞いたんだ。



山もなくなるだろうし、遊び場もなくなっていくのは悲しいよね。ほかに緑があればなー・・・



そういえば、お父さんがよく「緑化」がなんとかって言ってたなあ・・・

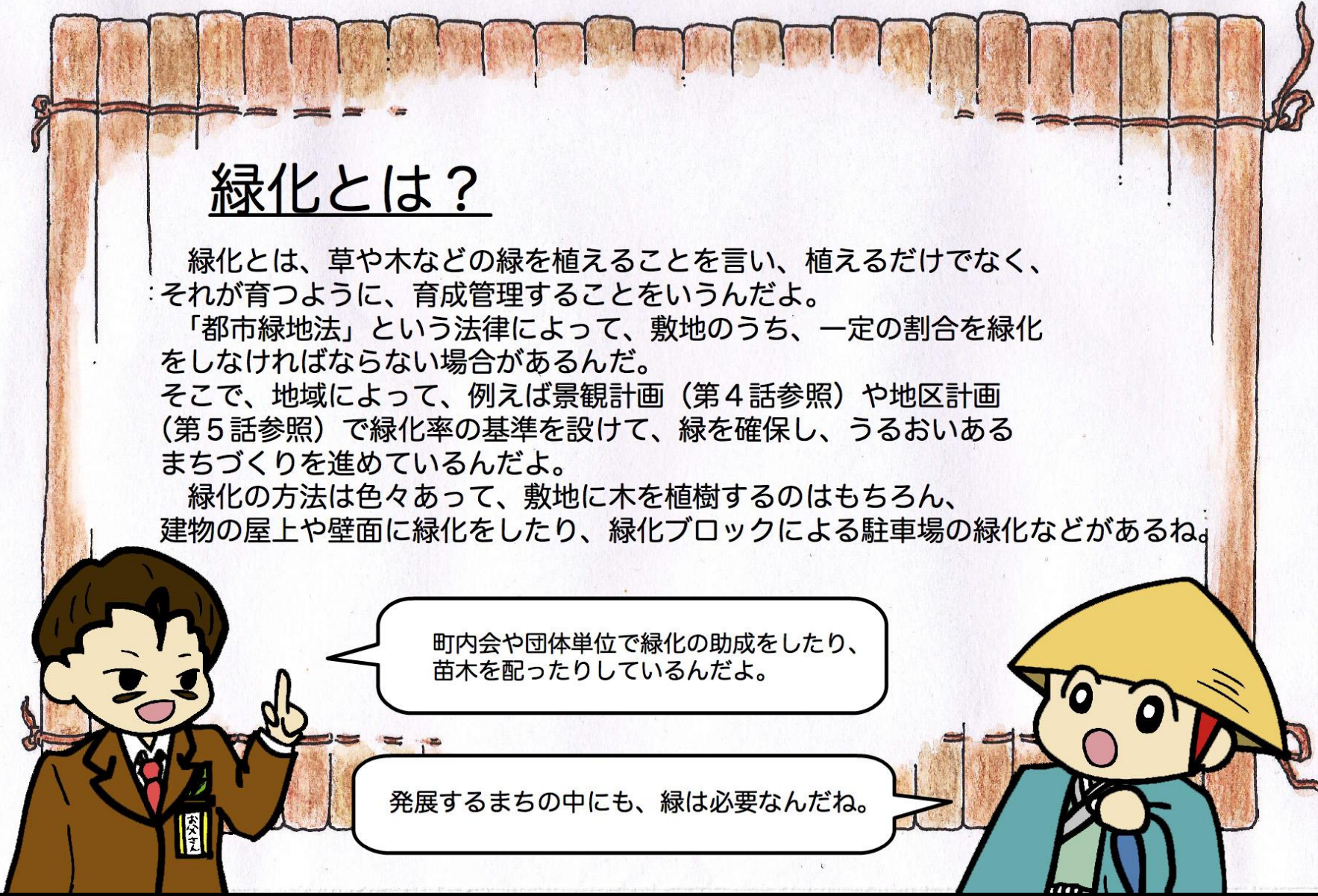
## 緑化とは？

緑化とは、草や木などの緑を植えることを言い、植えるだけでなく、それが育つように、育成管理することをいうんだよ。

「都市緑地法」という法律によって、敷地のうち、一定の割合を緑化をしなければならない場合があるんだ。

そこで、地域によって、例えば景観計画（第4話参照）や地区計画（第5話参照）で緑化率の基準を設けて、緑を確保し、うるおいあるまちづくりを進めているんだよ。

緑化の方法は色々あって、敷地に木を植樹するのはもちろん、建物の屋上や壁面に緑化をしたり、緑化ブロックによる駐車場の緑化などがあるね。



町内会や団体単位で緑化の助成をしたり、苗木を配ったりしているんだよ。

発展するまちの中にも、緑は必要なんだね。



そうか。  
子どもの遊び場だったり、憩いの場として  
公園が必要なんだな。  
あと、緑が少ないと息苦しく感じたり、  
うるおいが感じられなくなってしまうんだなあ。



そういえば前に会ったケインさんも、  
緑化が大事だとか言ってたしな。



まさか子どもから教えてもらおうと思わなかったし、  
いろんな人の意見を聞くのも大事なんだな。





ねえ、たび丸さん、玉川にはタヌキがいっぱいいる、  
って聞いたんだけど、「区画整理」っていうので  
山がなくなっちゃうんだよね？



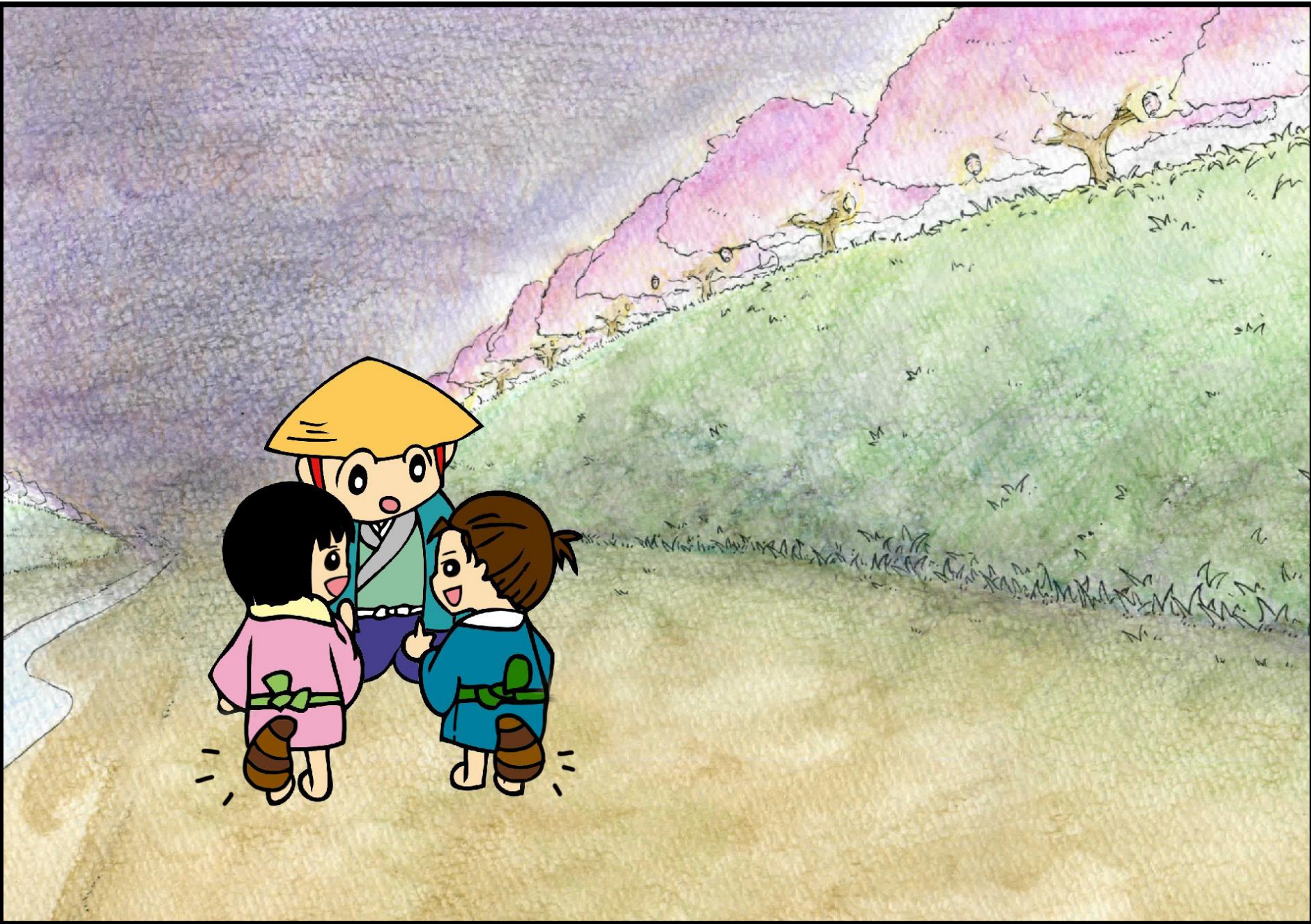
タヌキさん達がかawaiiそうだよ。  
家を追われたタヌキが化けて出てきたりして。



玉川の変わりに、山を作ったらどうかな。  
名前は「狸山」たぬきやまなんてどうだろう。  
果物とかも植えたりしてさ。



(この子達、やけに詳しいな。ん・・・?)

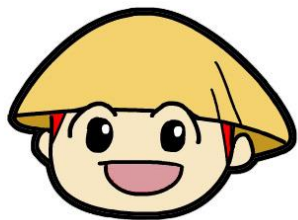




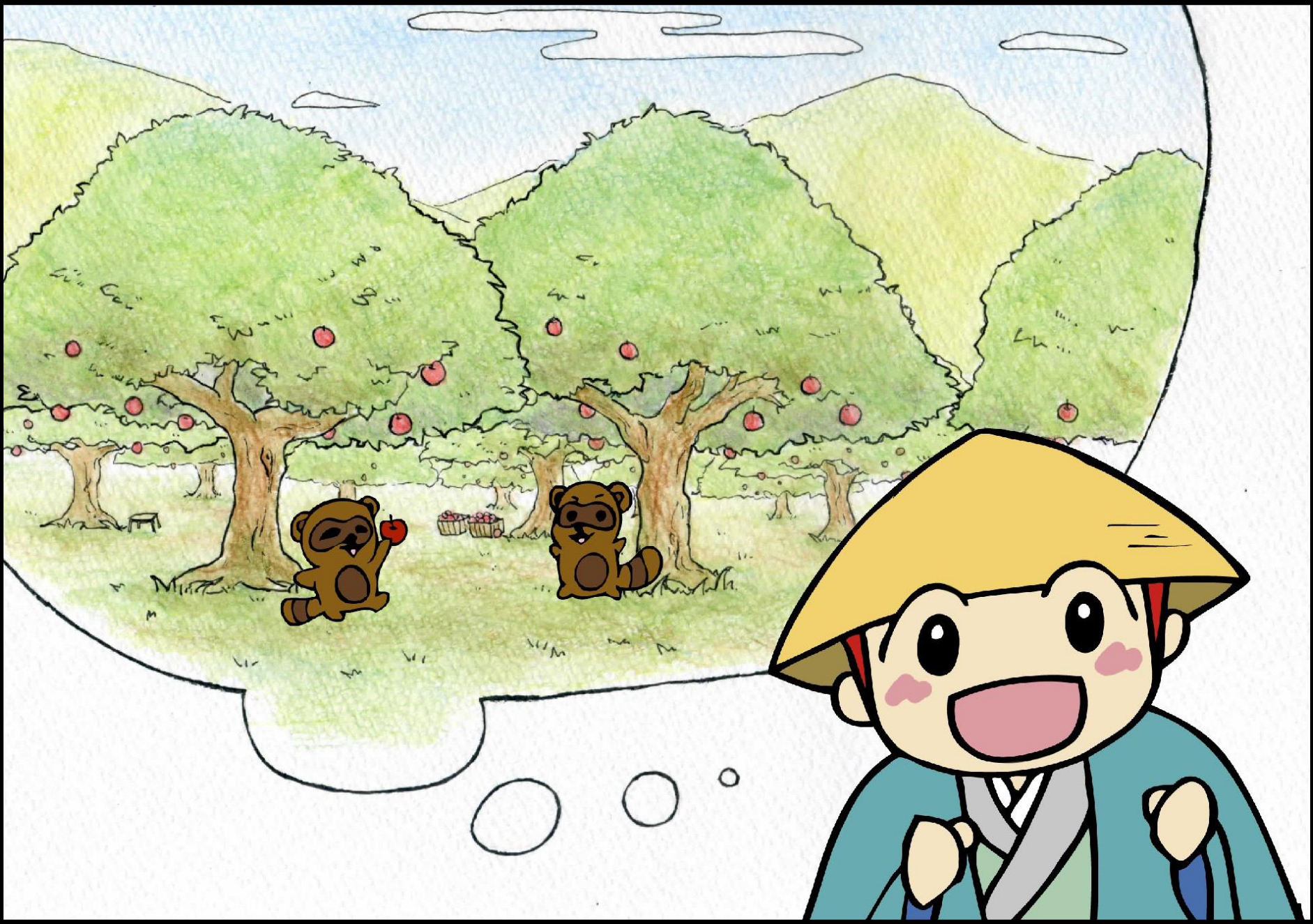
ん？  
どうかしたの、たび丸さん。



(タヌキが化けてたんだな。夜だったら人も少ないし。  
タヌキの子どもも外で思いっきり遊びたい年頃なんだな。)



狸山か、いいねそれ！  
タヌキさん達には引越してもらおうことになるけど、  
木をいっぱい植えて、梨や柿の木を植えて、果物が  
とれるようにすればタヌキさん達もよろこぶだろうな一。





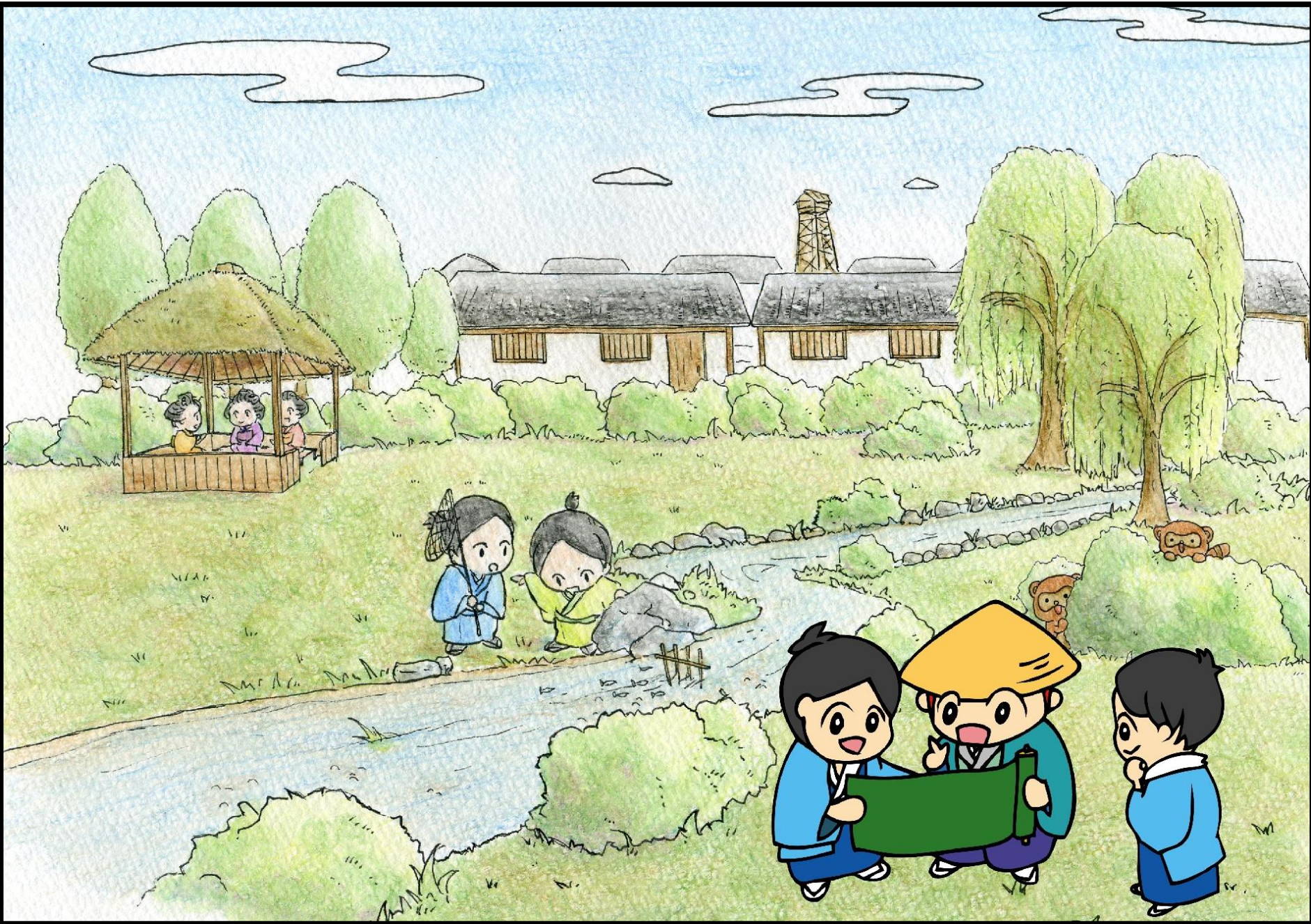
わーい！  
たび丸さんありがとう！  
家に帰ってお母さんに話してみよう！



僕たち、もう遅いから帰るね。  
また遊んでねー！



気をつけて帰るんだよー。





こんにちは！たび丸さん。  
お母さんがたび丸さんにどうしても渡してくれって・・・  
この大きいつつらか小さいつつら、  
どっちか一つを選んで！



せっかくだし、大きいほうで！



中身はたび丸さんが困ったときにあけてね。  
必ず役に立つから。



ありがとう！  
(それにしてもすごい重たいなコレ・・・)

# くさつ博士のホントの歴史

古代の製鉄遺跡、中世の野路宿から時を経て、大正時代、老上村大字南笠の笠山丘陵に、岐阜県大垣から移り住んだ人々によって果樹栽培が始まりました。昭和初期には、果樹農家も増えて南笠果樹組合みなみがさができ、戦後の最盛期には大阪や大津の市場へ出荷されるなど需要も多くありました。しかし、戦後の高度成長期には、トラック輸送の発達によって、短時間での輸送が可能になったことで鳥取の梨に押され、一方では草津市域の交通の利便性から果樹園は住宅や工場などに変わっていきました。

昭和 39 年の名神高速道路や東海道新幹線の開通とともに、野路山丘陵の住宅工業団地の誘致ゆうちが始まり、昭和 44 年に工場が移転して、市城南東部の景観は一変しました。さらに、近年では立命館大学びわこ草津キャンパスの立地、新名神高速の草津・田上インターの開業など、めまぐるしい変化がみられています。

草津市南部のまちの変容から中心部へ目を移すと、天井川として特異な景観を呈する草津川ていがありました。平成 16 年に平地河川化され、川としての役割を終えました。この草津川には、明治 43 年 3 月に、草津小学校の卒業記念に桜の木を植樹したのが始まりで、その後 6 年間継続され、約 1 km にわたって桜並木が続きます。

